

オツカレさま

ジャンル：ノベルホラー、探索型、マルチエンディング

プレイ人数：1人

プラットフォーム：未定

推定プレイ時間：未定

ターゲット層：ノベルホラーに興味のある人、土着信仰ホラーに興味のある人（年齢性別は問わない）

コンセプト

「善意によって膨らんだ狂気」

- ・ 奇妙な信仰が根付いた村でおこる人的恐怖
- ・ 神的存在はほとんど登場せず、教信者の行動が恐怖を生む
- ・ 日常で使うこともある「おつかれさま」という言葉を恐怖の対象に変化させる

舞台設定・導入

- ・ 山間にある閉鎖的な村。古くから土着信仰として「オツカレ様」とそのお世話をする神職「お仕え様」の2つを村全体で強く崇めている
- ・ 大学で民俗学を学ぶ主人公とその先輩が舞台の村の存在を知り、夏休みを利用して調査。村で調査をする中で村全体の狂気に触れ、脱出を試みる

キャラクター概案

- ・ 主人公：男子大学生。よく先輩からフィールドワークに参加させられるため、今回も無理やり参加。慎重な性格で物語中では冷静に生き延びるための方法を探る
- ・ 先輩：女子大学生。興味を持った対象を満足するまで調べなければ収まらない性格。舞台の村に調査に来たことを後悔しつつも狂気に飲まれないよう尽力する
- ・ 村民：土着信仰「オツカレ様」の信者。閉鎖的な村の中、科学などでは説明できないオツカレ様が現れたことで熱心な信者に。信仰心が強すぎた結果、村全体で厳しい戒律をつくり、オツカレ様への供物として農産物などのいたって普通の物だったが、次第に生贄を捧げたり狂氣的な神事を始めた。

- ・ オツカレ様：村民から信仰されている存在。本当に神なのかは不明。決まった姿形は無く、人の精神に作用し対象の意識を乗っ取るだけで人を通してオツカレ様自身が話すことはなく、乗っ取られた人の精神は抹消され自由意志も消失する。
奇跡を起こすことはないが人の精神を完全に乗っ取るという特異性が村民から畏れられ、神的存在とされた。人の体に宿るため生きていくために人間と同じように食事などが必要だが、それが人間そのものを使用した贅である必要はない。
- ・ お仕え様：オツカレ様の身辺の世話をする役割の人。こちらは本人の意思が存在する。強くオツカレ様を信仰した人物が村全体の投票によってお仕え様となれる村の中では誇り高い役職。平時は村を練り歩き村民からオツカレ様への供物を受け取り、オツカレ様に奉納する。

ゲームシステム

- ・探索：村全体を自由に移動して情報収集
- ↓ ↑
- ・ストーリーパート：プレイヤーの選択によって物語が分岐、それまでに集めた情報やアイテムによって選択肢が変化
- ↓
- ・各エンディング

恐怖演出

- ・音
- ・視覚的演出
- ・物語を理解していく中でプレイヤーの心理に恐怖を与える
- ・ジャンプスケアは必要最小限（あるいは使用しない）

エンディング案

- ・「オツカレ様エンド」：村の狂気に飲まれ、脱出が困難となった時、当代のオツカレ様が主人公の精神に移り変わる。主人公、先輩は失踪。村では新たなオツカレ様の誕生で歓喜にわき、更なる狂気がすすむ。
- ・「お仕え様エンド」：狂気に飲まれ、オツカレ様を信仰するようになったエンド。数年後、新たなお仕え様となった主人公が新たなオツカレ様である先輩の世話をする。
- ・「おつかれさまエンド」：恐怖を乗り越え、2人そろって脱出。調査中に集めた村の狂气的な様子や証拠を基に警察に通報し、村民を検挙する。村での出来事を思い出すことはあるがそれに負けずに生きていく

- ・「お疲れSummerエンド」：実は村での出来事はすべてホラー映画の撮影であり、主人公は主演男優、先輩はヒロイン役の女優でただ演技をしているだけだった。撮影が終了し打ち上げが行われて平和なエンドのように思えるが、映画の撮影だとしても不可解な描写があり、考察することができる